

## 令和 8 年度岩手県幼児教育研究協議会の協議主題と協議の視点

## &lt;協議主題 1&gt;

## 指導と評価に生かす記録について

## 【協議の視点】

幼児理解を深め、幼児の姿から学びを見取り、指導の改善に繋げるため、どのような記録の作成や活用が考えられるか。

幼児期において育みたい資質・能力を育むための幼稚園等における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われる。また、資質・能力を育むに当たっては、幼児が自ら環境に関わって遊ぶ姿から学びを見取り、常に幼児の姿から指導の過程を振り返って改善を図ることが求められる。

そこで、幼児の姿から学びを見取り指導の過程を振り返るためには、どのような保育実践の記録の取り方が考えられるか。また、それを指導の改善に繋げるためには、どのような記録の活用の仕方が考えられるか。

## <協議主題2>

### 幼児教育と小学校教育の接続による教育の充実について

#### 【協議の視点】

- ① 架け橋期の教育の改善・充実に向けて、幼児教育と小学校教育の学びの繋がりを考えるに当たり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのように活用することが考えられるか。

各地域においては、架け橋期の教育の改善・充実に向けて「幼保小の架け橋プログラム」に取り組み、幼児教育と小学校教育の接続が進められているところである。そこでは、幼児教育において育まれてきた資質・能力が小学校の生活や学習においてどのように発揮されているのかを見取るなど、子供の姿を手掛かりに、幼児教育と小学校教育の教師等が協働して子供の学びの繋がりを考えることが大切であるが、その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をどのように活用することが考えられるか。

- ② 教育の連続性・一貫性を踏まえた架け橋期のカリキュラムの作成、実施、評価、改善を具体的に実施していくためにどのような取組が必要か。

各地域においては、子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働し、架け橋期のカリキュラムの作成・実施等が進められている。一方で、架け橋期のカリキュラム検討会議等や幼児教育と小学校教育の教師等の合同研修は実施しているものの、架け橋期のカリキュラム作成に至らなかったり、作成に留まり、実施・評価・改善が進んでいなかったりするなどの課題が見られる。架け橋期のカリキュラムの作成、実施、評価、改善を積み重ねていくことができるよう、どのような取組が必要か。

### <協議主題 3>

特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について

#### 【協議の視点】

- ① 合理的配慮の提供を踏まえた個別の教育支援計画の作成やその活用にあたって、どのような取組が考えられるか。

個別の教育支援計画は、幼児児童生徒等に対し、関係機関が連携・協力を図り、障害のある子供の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における子供の望ましい成長を促すため、教育機関が中心となって作成するものである。

また、合理的配慮とは、障害のある子供が他の子供と平等に教育を受けられるように、園が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、個別の教育支援計画に記載されることが考えられる。

個別の教育支援計画の作成にあたっては、幼児に対する支援の目標を長期的な視点から設定することや、活用にあたっては、切れ目ない支援に生かすことなどが大切であるとされている中、その作成や活用について、どのような取組が考えられるか。

- ② 個別の指導計画の作成やその活用にあたって、どのような工夫が考えられるか

障害のある幼児などへの指導は、一人一人の障害の状態等により、生活上などの困難が異なることに十分留意し、個々の幼児の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法を工夫することになる。

個別の指導計画は、個々の障害のある幼児などの実態に応じて適切な指導を行うために園で作成するものであり、教育課程を具体化し、障害のある幼児一人一人のねらい、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

その作成にあたっては、一人一人の障害のある幼児などの育ち、学級経営、保護者からの要望、関係機関からの情報等、様々な側面から、見通しをもって指導を考えることや、活用にあたっては、当該幼児の姿を捉え計画を見直しながら指導の方針を改めて決めていくことなどが大切であるが、その作成や活用に当たりどのような工夫が考えられるか。

## (協議主題の理解を深めるために必要な資料等)

### ○幼稚園教育要領及び同解説

#### 第1章 総則

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

第4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

1 指導計画の考え方

2 指導計画の作成上の基本的事項

3 指導計画の作成上の留意事項

4 幼児理解に基づいた評価の実施

第5 特別な配慮を必要とする幼児への指導

1 障害のある幼児などへの指導

### ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び同解説

#### 第1章 総則

第1 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等

3 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画 等

1 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画の作成 等

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

2 指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価

(1) 指導計画の考え方

(2) 指導計画の作成上の基本的事項

(3) 指導計画の作成上の留意事項

(4) 園児の理解に基づいた評価の実施

3 特別な配慮を必要とする園児への指導

(1) 障害のある園児などへの指導

### ○保育所保育指針及び同解説

#### 第1章 総則

1 保育所保育に関する基本原則

3 保育の計画及び評価

(1) 全体的な計画の作成

(2) 指導計画の作成

(3) 指導計画の展開

#### 4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

(1) 育みたい資質・能力

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

### 第2章 保育の内容

#### 4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

## ○小学校学習指導要領及び同解説

### 第1章 総則

#### 第2 教育課程の編成

##### 4 学校段階等間の接続

※「第2章 各教科」における生活においては、「幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。」とされており、国語、算数、音楽、図画工作、体育、「第6章 特別活動」においては、「幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。」とされている。

○「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（令和3年2月 文部科学省）

○「指導と評価に生かす記録」（令和3年10月 文部科学省）

○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」

（令和4年3月 文部科学省）

○「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）」

（令和4年3月 文部科学省）

○「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」（令和5年2月27日 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会）

○ 障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導（令和5年3月 文部科学省）

○「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽” ～「やってみたい」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～（動画コンテンツ）」

（令和6年4月 文部科学省）

- 「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？（幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料）」（令和6年4月 文部科学省）
- 「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会 最終報告」（令和6年10月 文部科学省）
- 「幼児教育は何のため？（幼児期の大切な学びが分かる動画）」（令和7年4月 文部科学省）
- 「遊びは学び 学びは遊び ” やってみたいが学びの芽” ～多様な遊びから見える資質・能力を育むための園の工夫～」（令和7年4月 文部科学省）
- 「遊びは学び 学びは遊び ” やってみたいが学びの芽” ～どろだんご遊びから見える資質・能力を育むための園の工夫～」（令和7年4月 文部科学省）